

東京都新宿区北新宿1-8-16
 東京土建一般労働組合
 電話03 (5332) 3971 (代表)
 FAX03 (5332) 3972
 発行人・編集人
 三木 勉

印刷部数11万1200部
 (購読料は組合費のな
 かに含まれています)
 (年間購読料 千八百円)
 定価 五十円

けんせつ

東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

国保都費補助 ハガキ要請行動

東京都はコロナ対策で財政調整基金を約9億円投入、税収減も想定されており、土建国保補助確保のハガキ要請を全力で取り組むことが重要です。10月までとなります。ご協力をお願いします。

大成建設現場でクラスター 感染拡大防止と休業補償を要求

コロナから労働者を守る

休工時の補償を国会で共有



現場休工を確認した佐藤書記

大成建設の都内の現場でクラスターが発生。7月15日にはマスクも報道しました。大成建設が現場名を公表しないなか、東京土建は早く現場を特定し、仲間から情報を収集。現場内のPCR検査の実施や補償の話が周知されていない事実を国交省に情報提供し、大成建設への監督・指導を求めました。

【本部・書記・佐藤正雄記】7月15日、大成建設は都内建設現場において、17人の新型コロナウイルス陽性者が発生したことを発表、マスクは「クラスター」と報じました。東京土建は、感染拡大下の3月末以降、コロナに怯える従事者の声を背に、現場での感染予防の徹底を元請企業に求めてきました。今回、恐れが現実となっていました。

国交省に大成を指導させる

現場はストップ、陽性者がさらに増えているとの情報が飛び交いました。下請各社は待機を余儀なくされましたが、大成から休業補償の話はなく、生活不安から他の現場に移動した従事者もいました。休業と補償がセットにならないければ、無症状や軽症のウイルス保持者が、他現場に感染を広げる危険な事態となります。また、現場名の非公表が憶測と混乱を呼び、「大成の現場に入っていた者には気をつける」「PCR検査を受けてこない」と現場に入れないなど、立場の弱い従事者への人権侵害と負担の押しつけが心配されました。

感染への労災適用へ道開くか

国会でも問題となりました。7月31日、武田良介議員(共産)の質問に対し国交省は、大成が下請業者に対し、万全の休業補償を行なう方針を速やかに伝達する旨を答弁しました。現場休工時の休業補償の必要性が国会で共有された画期的な成果です。大成は下請業者の労災申請を促すとしており、建設現場でのコロナ感染への労災適用に道をひらく可能性があります。

東京土建は事態を重く見て、国交省に情報を提供し、感染の実態把握とさらなる拡大の防止、万全の休業補償、陽性者への人権保護に配慮しつつ、現場名の公表も含めた適切な情報開示を行なうことなど、大成への指導・助言を求めました。そうした中、下請従事者10人への感染拡大が判明、まさに現場クラスターの様相です。

■全国の地域別最低賃金が出そろった。コロナ禍で経済が悪化する中、経営側が主張する引き上げ凍結の意見を汲んで、厚生労働省の審議会は引き上げの目安を示さなかった。そうしたゼロからの審議で出された引き上げ幅は、1円〜3円引き上げが40県で、全国加重平均で1円1角上りの902円となった。

■東京の最賃審議会は「現行通り」を答申。同事務部会と総会では労働側の委員が抗議文を読み上げて退席し、その後東京地評加盟組合などから異議申し立てが多数寄せられた。また最賃1500円を目指すエキタスの若者からは、コロナ感染のリスクを抱えて休みなく働いている。出費を切りつめ、命を削って暮らしているなどの悲痛な声が東京労働局へ寄せられた。

■コロナ禍に陥る前から、賃金が最賃付近に張り付いている労働者が増えていく。最賃引き上げで自分の現在の賃金が最賃を下回ってしまう労働者の割合は、2011年度には3.4%だったが、19年度には16.3%に上昇した。最も高い東京の最賃1013円でさえ、フルタイムで働いても年収200万円に届くかどうかだ。コロナ禍で国民の生活を守るために働いているエッセンシャルワーカーの処遇を改善するためにも、最賃の大幅引き上げこそが求められている。

労働者供給事業が始動

納得いく条件でやりがいも

賃金、労働時間、社会保険(建設国保の適用除外を含む)の適用などの労働協約を供給先企業と締結した上で、労働組合が登録した労働者を供給する労働者供給事業。東京土建は江戸川区にある丸喜(株)齋藤組(以下、丸喜)と労働協約を締結。2020年7月29日から、中野区上高田にある丸喜の現場(新築、個人住宅)で新宿支部の仲間2人(大工)がこの事業のもとで働き始めました。8月20日に現場で話を聞きました。

上高田の現場で働き始めた。工歴は影山さんが27年、隅田のは、新宿支部の影山康洋さん。さんが11年、5年ほど前からと隅田祐太郎さんです。大一緒に仕事をするように。新

宿区内の工務店で仕事をしていた時、その事業主から、「丸喜という会社の仕事で、東京土建を進めている労働者供給事業というものがあるのだが、やってみたいか」と声をかけられました。「私は新宿支部で役員をやっていたので東京土建でどういった仕事をやっているかという事業をやっていることは知っていましたし、安心して働けると思い登録しました。

本部主催の労働者供給事業
「登録研修会」の日程

日程	受付開始時間	説明会開始時間
9月11日(金)	午後6時30分	午後7時
10月19日(月)	午後6時30分	午後7時
11月8日(日)	午前9時30分	午前10時

●会場はいずれも東京土建本部会館
 ●持参するもの…身分証明書(免許証等)、社会保険関係の証明書(年金手帳、健康保険証、雇用保険被保険者証)

お問い合わせは、☎03-5332-3971
 東京土建本部・北川まで

就労して20日余りですが、工程表とおり順調に進んでいきます。休日は日曜と祝日、労働時間は午前8時から午後5時までで、残業は今のところありません。ガソリン代、消耗品などの経費もちゃんと請求してくれと言われています。

と労働条件については納得して働いていると隅田さんは話してくれました。影山さんは「今までリフォームの仕事が続いていましたが、大工なのでやはり新築の仕事はやりがいがあります」と笑顔で話してくれました。



休憩時間中の隅田さん(右)と影山さん